

お知らせ

INFORMATION

No.2021-09

2021 年 3 月

病体生理研究所

新規受託開始および受託中止のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記検査項目におきまして、新たに受託を開始させて頂くことになりましたので、ご案内申し上げます。併せて旧検査コードにつきましては受付中止とさせていただきます。

何卒、ご了解賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

【新規受託開始について】

- ◆ IV型コラーゲン・7S [16350] …検査実施施設 S
※統一セットNo.27 のIV型コラーゲン・7S も新規項目に変更となります。
- ◆ テストステロン [16445] …検査実施施設 M
- ◆ プロゲステロン [16446] …検査実施施設 M

※項目情報中面参照

《受託開始日》2021 年 3 月 29 日（月）受付分より

【検査中止項目】

今回の新規項目受託開始に伴い、下記項目の受託を中止させていただきます。

- ◆ IV型コラーゲン・7S [12826] …検査案内 P.12 検査実施施設 S
- ◆ テストステロン M [10177] …検査案内 P.43 検査実施施設 B
- ◆ テストステロン F [10178] …検査案内 P.43 検査実施施設 B
- ◆ プロゲステロン非妊婦 [10532] …検査案内 P.43 検査実施施設 B
- ◆ プロゲステロン妊婦 [10533] …検査案内 P.43 検査実施施設 B

《最終受付日》：2021 年 3 月 27 日（土）受付分まで

【新規項目情報】

項目名称	IV型コラーゲン・7S
コード	16350
検体材料	血清 0.5mL
保存・安定性	冷蔵（23 日）
検査方法	CLEIA
基準値（単位）	4.4 以下 ng/mL
所要日数	3~6 日
実施料（区分）	148 点（D007 39）
判断料	144 点 生化学的検査（I）
備考	統一セットNo.27 のIV型コラーゲン・7S も変更となります。

CLEIA 法を用いた、より高感度に血中IV型コラーゲン・7S を測定する検査です。

近年、慢性肝疾患では、非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）や非アルコール性脂肪肝炎（NASH）が増加しており、NASH の病態把握においては肝線維化のモニタリングが重要視されています。

IV型コラーゲン・7S は、基底膜の構成成分であるIV型コラーゲン分子におけるN 末端の 7S 領域を指し、タンパク分解酵素の影響を受けにくいため血中で安定していることが知られています。

正常な肝臓の類洞中には基底膜は存在しませんが、肝線維化が起こることで基底膜構成成分が分泌され沈着し、IV型コラーゲン・7S が血中に漏出します。

IV型コラーゲン・7S は、肝線維化の比較的早期から血中に増加することから肝線維化の指標として有用で、NAFLD と NASH の鑑別マーカーとしても期待されています。肝疾患の慢性化に伴い増生・蓄積される線維化の量を知ることは、疾患の治癒や予後の判定に極めて重要です。

参考文献：大高木 結媛，他：医学と薬学 77（5）：785～792，2020。（検査方法参考文献）

豊田 秀徳，他：肝臓 59（8）：377～383，2018。（臨床的意義参考文献）

項目名称	テストステロン
コード	16445
検体材料	血清 0.5mL
保存・安定性	冷蔵
検査方法	CLIA
基準値 (単位) ※	M : 1.92~8.84 F : 閉経前 0.15~0.44 F : 閉経後 0.12~0.31 ng/mL
所要日数	3~5 日
実施料 (区分)	125 点 (D008 14)
判断料	144 点 生化学的検査 (Ⅱ)
備考	午前中 (9~12 時) に採血してください。 性別・年齢を必ずご記入下さい。

※女性の場合、報告書への基準値の記載は行いません。本案内をご参照ください。

参考文献：松崎利也 他,医学と薬学70(2):331,2013.

項目名称	プロゲステロン
コード	16446
検体材料	血清 0.3mL
保存・安定性	冷蔵
検査方法	CLIA
基準値 (単位) ※	M : 0.6 以下 F : 卵胞期 0.4 以下 排卵期 3.7 以下 黄体期 8.5~21.9 妊婦 : 前期 23.9~141 中期 25.7~143 後期 51.2~326 ng/mL
所要日数	3~5 日
実施料 (区分)	151 点 (D008 24)
判断料	144 点 生化学的検査 (Ⅱ)
備考	妊娠の有無、妊娠週数をご記入下さい。

※女性の場合、報告書への基準値の記載は行いません。本案内をご参照ください。

参考文献：岩佐 武 他,産科と婦人科73(1):133,2006.

以上